

成人看護学

- 1 成人看護学の考え方
- 2 成人看護学目的・目標
- 3 成人看護学の構成
- 4 成人看護学学習内容

1 成人看護学の考え方

成人期は身体的・精神的・社会的にその機能を充実させ生きている時期であり、青年期・壮年期・向老期に分けられる。成人看護学では第二次性徴の出現がみられる思春期を含めず 18 歳前後から 65 歳前後を対象とする。青年期は身体・性的機能が最も高く、職業選択をして新たな家庭を築くなど社会的自立を準備する時期である。壮年期は青年期が終わる 30 歳前後から 60 歳前後の期間を指し、成熟した身体の機能を維持しながら自律した社会活動を営み、精神活動の充実を図る時期である。壮年期には心身の加齢現象を自覚し、生殖機能の減退が生じる更年期も含まれる。壮年期を経て、60 歳前後から 65 歳前後を向老期と区別する。向老期は、身体的衰退の自覚や退職を迎える時期であるが、精神活動を充実させるとともに、これから迎える老年期の自立に向け準備する時期である。成人期は生産年齢の中心であり働き盛りの時でその責任と役割は大きい。そして、成人期は自分のためだけではなく、自分以外の人のためにも生きる時期で、家族を形成し子供を養育し、高齢者を支えている。

わが国では経済成長とともに、生活環境は改善され医療は進歩を遂げ、平均寿命は伸び続けている。また、わが国の主な死因はがん、心臓病、脳卒中で、これらの疾患は生活習慣との関連が強いといわれている。さらに糖尿病やその予備軍とされる人が 5～6 人に 1 人の割合となっていて、30 歳以降は有訴者・通院者率は急激に上昇している。すなわち成人期は生活習慣病の発症の時期で健康診査の必要な対象年齢にあたり、健康増進を目指すとともに、疾病の発症・進行の予防が大きな課題である。そこで 2000 年から「健康日本 21」では 21 世紀における国民健康づくりのための政策が開始され、①壮年期死亡の減少、②健康寿命の延伸、③生活の質の向上を目指している。

しかし、経済状況が悪化した現在、失業・貧困そして健康保険制度が崩壊しつつあり、十分な医療が受けられず健康格差が生じていて、社会環境と健康問題を区別して考えることはできない。成人はあらゆるライフサイクルのなかでも最も社会的な責任が要求され、それを果たしながらうまく適応し自立しているのが理想的な姿だが、その役割の成就のかたわらでは、様々なストレスや危機や不安に遭遇し、自殺者の増加を生み出している。

従って成人看護学では、社会環境の影響と健康問題を考え、さらに個人の健康的な生活習慣獲得への取り組みをサポートし、セルフケアの確立をめざすための支援を考える。さらに、機能障害に対し、その発生の原因と回復の過程を理解し、日常生活への適応に向けた支援の在り方を学ぶ。

成人の特性

- 1 ライフサイクルの中で成人期は、人生で最も充実した時期であり、身体的には成長・成熟・衰退と変化する。
- 2 成人は身体・心理・社会的な統合体として存在し、身体内部の生理的環境及び心理機構としての内部環境と、自然や生活環境、社会、文化的環境としての外部環境の変化に適応しながら生活している。
- 3 成人期の人々は豊かな感受性をもち、自立かつ自律した存在である。
- 4 成人は、青年期・壮年期・向老期に分けられ生産年齢にあるものとして、大きな社会的期待を担っている。
- 5 成人期では親密性を築き、家族の形成や子どもの養育、老親の介護問題など発達課題を達成する中で成長を続ける存在である。

成人の健康問題

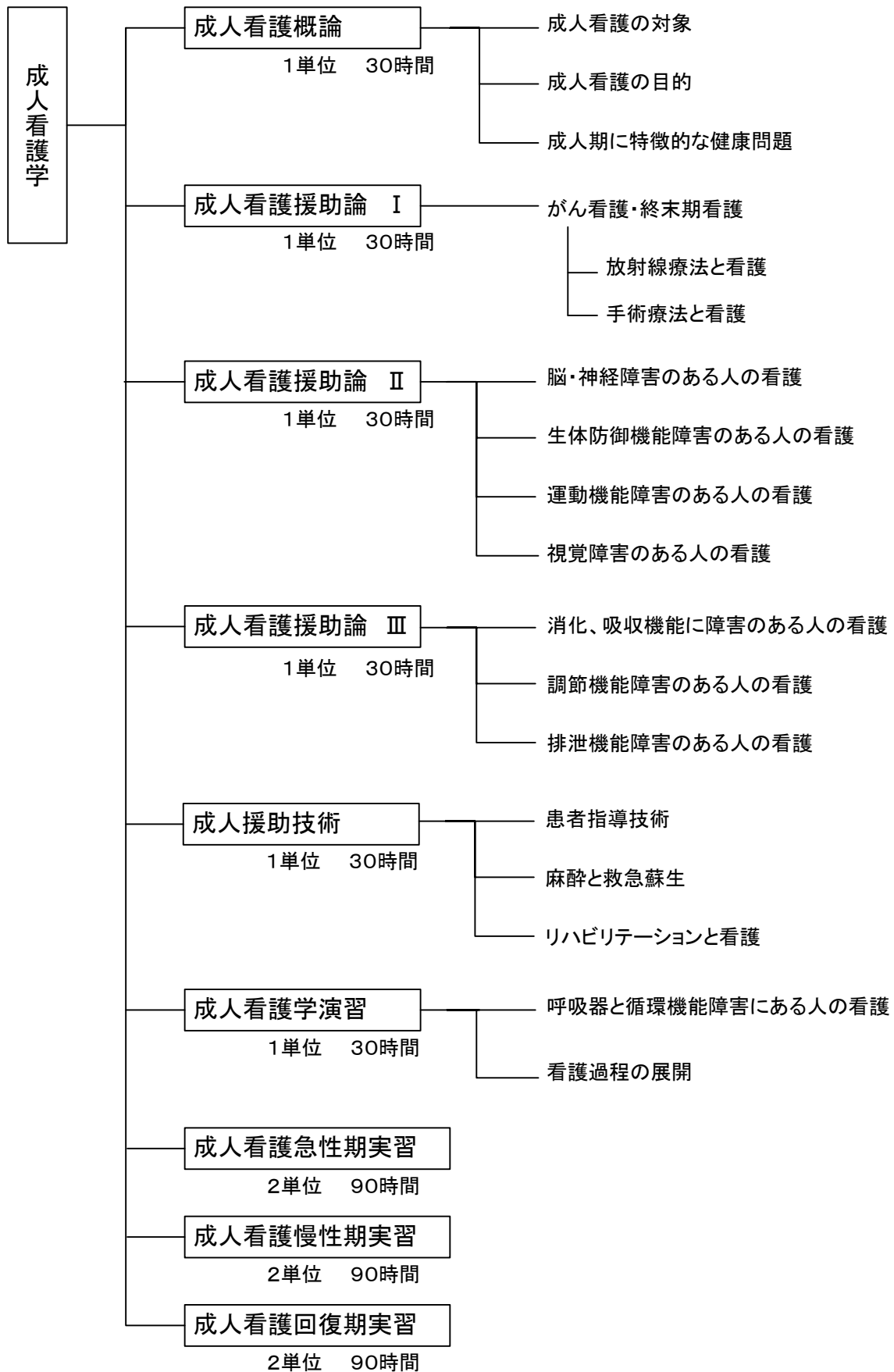
- 1 成人の健康の最適状態は個人的なものであり、人によって異なる。
- 2 成人には加齢に伴う心身の変化を自覚する。
- 3 成長過程の中で基本的な生活習慣は壮年期以降の生活習慣病の発生に影響している。
- 4 成人期は家庭生活や社会生活で健康に及ぼすさまざまな要因にさらされストレスを受けやすい時期であり、ストレスに関連した健康問題が起こりやすい。
- 5 成人期は発達課題を達成するなかでの危機や、偶発的に発生する状況的危機に陥りやすい。
- 6 医学や科学技術の進歩に伴い、疾病・障害とともに、また機器とともに生活する人が増加している。

2 成人看護学目的・目標

目的：成人の健康の保持増進及び疾病予防の重要性を理解し、成人期にある対象と共に、健康上の諸問題を判断し、自立に向けて看護を実践できる能力を養う。

- 目標：
- 1 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を把握し、対象の特徴を総合的に理解する。
 - 2 成人の健康の現状と動向を理解するとともに、健康な生活を維持・増進する為に必要な看護師の役割を理解する。
 - 3 成人期にある人々の様々な価値観、個別性及び社会的存在に関心を深めることができる。
 - 4 機能障害のある成人の特徴をアセスメントし診療に伴う援助及び、それに応じた日常生活の援助が実践できる。
 - 5 健康障害の発症予防から急性期・回復期・慢性期・安らかな死を迎えるまで、各健康レベルに応じた看護が実践できる
 - 6 成人各自の自立性を生かし、セルフマネジメント能力を高めるためのアプローチができる。
 - 7 対象の健康上の問題をアセスメントし、セルフケア再構築のための看護過程を展開できる。

3 成人看護学の構成



科目名 成人看護概論 単位数 1 単位 30 時間

科目区分名 成人看護学

開講期 1 年次 前後期

教員名 長谷川 真美

授業概要：現代社会は、より便利に、より多様性を増しつつ変化をとげている。文明の近代化がもたらす恩恵と、生産性重視の社会構造のひずみより発生する健康問題が共存している。この様な時代を生きる成人期の健康生活を多角的に捉える視点を学び、成人の生活や生き方、健康問題について理解する。健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方と方法を学ぶ。

- 到達目標：1 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を把握し、対象の特徴を総合的に理解する。
- 2 成人の健康の現状と動向を理解するとともに、健康な生活を維持・増進する為に必要な看護の役割を理解する。
- 3 成人期にある人々の様々な価値観、個別性及び社会的存在に関心を深め、成人期における看護介入を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	成人の特徴 生活・発達課題	講義
2	生活と健康 行動変容・やる気を引き出すアプローチ	講義
3	成人の生活習慣と健康問題 職業と健康問題	講義
4	生活習慣とQOL	講義
5	生活と健康を守る保健・医療・福祉システム	講義
6	成人への看護アプローチ 健康生活を育む看護	講義
7	生活ストレスと看護 情緒的支援の看護	講義
8	急激な健康破綻から回復を促す看護	講義
9	新たな治療法・先端医療と看護	講義
10	侵襲的治療を受ける患者の看護	講義
11	健康生活の慢性的揺らぎの再調整を促す看護 慢性病患者への看護 特定疾患	講義
12	障害をもちながらの生活とリハビリテーション 障害の受容 家族・患者会への支援	講義
13	退院調整の看護 成人教育の原理	講義
14	健康レベル・経過に応じた看護	演習
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)

参考書

科目名 成人看護援助論 I 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 成人看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 寺側 優里 橋本 一予 廣瀬 朝江 山入端 薫

授業概要：我が国の死亡者の 1 / 3 はがんによる死亡である。がん医療は、手術療法・放射線療法・化学療法などこの 20～30 年の間に目覚ましい進歩を遂げ治癒率、生存率を向上させている。しかし、治らないがんが依然として 50%を占めている。生存率の向上は、がんとともに生きる期間が長くなることを意味し、人々は治癒を目指した治療のみではなく、がん患者の生活の質、自己決定権を尊重するインフォームドコンセント、ホスピス、緩和ケアに関心を向けるようになった。ここではがん患者の現状と問題、各種治療と看護、終末期医療とがん患者のケアについて学ぶ。

- 到達目標：1 がん患者の現状と問題から、がん看護の役割を理解する。
 2 終末期医療の現状と看護の役割について理解する。
 3 放射線医学の概要を学び、放射線治療を受ける患者への看護の役割を理解する。
 4 手術療法を受ける患者の特徴を知り看護の役割を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	がん治療と終末期医療の概論	講義
2	がん性疼痛とコントロール 薬物療法	講義
3	緩和ケアの理念・歴史 死の受容	講義
4	終末期にある患者の全人的苦痛と看護介入 QOL の保障	講義
5	身体症状マネジメントとケア	講義
6	代替・補完療法 緩和ケアにおける倫理的問題	講義
7	精神・社会・スピリチュアルな側面に対するケア 家族への支援	講義
8	放射線医学の成り立ち・X線診断	講義
9	血管造影・IVR・MRI・超音波診断 放射線診断 核医学診断	講義
10	放射線治療と看護 放射線の有害反応と看護	講義
11	急性期にある患者の看護	講義
12	周手術期にある患者の看護	講義
13	術前・術中・術後の看護	講義
14	手術を受ける患者の看護 術後合併症の理解	講義
15	術後の回復を促進する援助 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100 点 配点 (がん・終末期 50 点 手術 30 点 放射線 20 点)

テキスト 別巻 緩和ケア (医学書院)
 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)
 別巻 臨床放射線医学系統看護学講座 (医学書院)

科目名 成人看護援助論Ⅱ 単位数 1単位 30時間
 科目区分名 成人看護学
 開講期 2年次 前期
 教員名 澤田良子 野々山 未希子 矢口 智久 阿久津 清

授業概要：成人の概念を理解した上で、人間の各臓器に障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを知り、疾患と医学的対応を統合させ療養生活を強いられた人への看護の役割を学ぶ。ここでは大正時代より死因の上位を占めていて平成9年以降3位となっている脳血管疾患患者の看護について学ぶ。脳内出血・脳梗塞・クモ膜下出血が主な疾患である。また、血液・造血器疾患では、食習慣や成長発達に伴い出現する貧血や、難病に位置づけられる再生不良性貧血などの重症な疾患、悪性新生物に分類される白血病の看護がある。さらにAIDSをめぐる看護を取上げる。運動器疾患では身体的変形・機能障害・痛みなどの障害が生活する中で障害となりやすい。これらの障害に対して、早期離床と機能改善、動作の再獲得に向け患者ができるだけ自立できるよう看護援助を学ぶ。

- 到達目標：1 成人期に起こりやすい脳神経・運動機能障害・生体防御機能障害の健康障害の特徴を把握し、機能障害別に応じた看護を理解する。
 2 成人期にある人々の、脳神経・運動機能障害・生体防御機能障害の発生を予防し、健康の維持・増進が図れるための援助方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	脳神経疾患患者の看護 主な検査 意識障害のある人の看護	講義
2	頭蓋内圧亢進・言語障害・高次脳機能障のある人の看護	講義
3	片麻痺患者のADL 運動失調・不随意運動・運動麻痺のある人の看護	演習
4	脳血管疾患患者の看護	講義
5	血液疾患をもつ人の特徴と看護	講義
6	化学療法を受ける人の看護 輸血療法と看護 移植を受ける人の看護	講義
7	HIV病態治療 看護の役割と感染予防	講義
8	STI性感染症 予防と看護の役割	講義
9	運動器疾患患者の特徴と看護	講義
10	運動器疾患の検査と看護 保存的療法を受ける患者の看護 手術を受ける患者の看護	講義
11	運動器疾患の看護（大腿骨警部骨折・脊椎疾患）	講義
12	感覚機能障害をもつ人の看護	講義
13	視力障害のある人の援助	演習
14	視力障害のある人の援助	演習
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 90点 配点（脳神経 40点 血液・化学療法 20点 運動器 30点）
 レポート 10点（HIV）

テキスト 成人看護学 [7] 脳・神経（医学書院）
 成人看護学 [4] 血液・造血器（医学書院）
 成人看護学 [10] 運動器（医学書院）

科目名 成人看護援助論Ⅲ 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 成人看護学
 開講期 1 年次 後期
 教員名 田辺 三矢子 金子 宏美 木村 京子

授業概要：内分泌・代謝疾患は遺伝的素因のうえに食生活上の問題、運動不足、ストレス不適應などが重なって発症する。糖尿病は代表的な代謝疾患であり、生活習慣病でもる。

長期のわたる薬物療法や生活の管理の方法、さらに自己管理が継続できるようサポートの在り方を学ぶ。消化器疾患は、食道・胃・腸・肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害では多彩な症状が出現し、経口摂取が困難な時は、経口以外の方法による栄養管理が必要となる。そして内科的治療から外科的治療まで看護の役割を学ぶ。腎・泌尿器疾患は慢性化しやすい疾患であり、長期に渡る透析療法や尿路変向を受ける人は増えている。さらに腎移植などの治療が普及しその際の援助と、男性生殖器疾患の看護について学ぶ。

- 到達目標：1 成人期に起こりやすい消化器・調節機能・排泄機能障害の健康障害の特徴を把握し機能障害別に応じた看護を理解する。
 2 成人期にある人々の、消化器・調節機能・排泄機能障害の発生を予防し、健康の維持・増進が図れるための援助方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	内分泌疾患患者の看護 下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患	講義
2	内分泌疾患患者の看護 副腎疾患 代謝疾患患者の看護 糖尿病	講義
3	尿糖・血糖の自己測定 演習	講義
4	糖尿病患者の看護 食事療法 運動療法 薬物療法 合併症	講義
5	高脂血症患者の看護 高尿酸血症患者の看護 肥満症患者の看護	講義
6	消化器疾患患者の理解	講義
7	消化吸収障害をもつ患者の看護 嘔気・嘔吐・腹痛・吐血・下血	講義
8	胃癌と胃切除術後の看護	講義
9	排泄障害をもつ患者の看護 ストーマの自己管理指導	講義
10	肝機能障害をもつ患者の看護 症状の進行に伴う看護	講義
11	腎・泌尿器疾患の症状・処置を受ける患者の看護	講義
12	腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護 検査を受ける患者の看護	講義
13	腎代替療法を受ける患者の看護	講義
14	腎・泌尿器の手術を受ける患者の看護 性・生殖機能障害のある患者の看護	講義
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100 点 配点 (消化吸収 40 点 内分泌 40 点 腎泌尿器 20 点)

テキスト 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)

成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)

成人看護学 [6] 内分泌・代謝 (医学書院)

科目名 成人援助技術 単位数 1 単位 30 時間

科目区分名 成人看護学

開講期 2 年次 前期

教員名 尾形 洋子 廖 英和 平林 弦大

授業概要： 近年、医療の高度化・医療機器の複雑さが顕著となり、新たな危険も生じている。日進月歩の勢いで進歩していく医療や機器類に対応していけるよう特殊な治療方法について学ぶ。ここではリハビリテーション・麻酔法・放射線療法と看護の役割について、また、心肺蘇生法について演習を行いその技術を身につける。

- 到達目標： 1 麻酔・手術に伴う生体への侵襲を学び、早期回復のための看護の役割を理解する。
2 リハビリテーションと看護の役割について理解する。
3 模擬指導の演習をおこないセルフマネジメントの援助について理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	セルフマネジメント・自己効力とは	講義
2	ヘルスプロモーションのアセスメント 事例紹介 情報収集	演習
3	患者指導案作成	演習
4	患者指導のロールプレイ リフレクション	演習
5	麻酔科概論	講義
6	麻酔の種類とその進め方 全身麻酔 局所麻酔	講義
7	回復室における全身管理	講義
8	疼痛管理 ペインクリニック 鍼灸 漢方	講義
9	鍼灸	演習
10	心肺蘇生 A E D	演習
11	リハビリテーション総論 障害の分類 ICF 身体障害者法と社会資源	講義
12	リハビリテーション看護の展開	講義
13	リハビリテーション看護の実際 歩行介助・車椅子介助・床上移動・階段昇降の介助	演習
14	症例を用いたリハビリテーションの実際 動作介助とボディメカニクス	演習
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100 点 配点 (患者指導成果物 20 点 麻酔・救急蘇生 40 点 リハビリ 40 点)

テキスト 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)

別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)

別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)

科目名 成人看護演習 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 成人看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 櫻井 貴恵 埼玉県立循環器呼吸器センター看護師

授業概要：我が国における心疾患は3大死因の1つである。さらに呼吸器疾患は喫煙習慣や高齢者人口が増え、肺がんが増加している。人間の循環機能・呼吸機能の障害は生命の危機や重篤な疾患であり、発症直後の救命処置から、再発予防や生活の再構築が目指せるようサポートが必要である。ここでは循環機能障害・呼吸機能障害に伴う検査・治療・処置に対する援助方法を学び、さらに健康障害のある人の事例をもとに看護過程を展開する。対象の身体的、心理・社会的特徴を明確にし、成人の健康問題を明らかにできるよう看護の実践方法を学ぶ。

- 到達目標：1 成人期に起こりやすい循環器疾患・呼吸器疾患の健康障害の特徴を把握し、機能障害別に応じた看護を理解する。
 2 成人期にある人々の、循環器機能障害・呼吸器機能障害の発生を予防し、健康の維持・増進が図れるための援助方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	循環器疾患の主な症状の看護（胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難）	講義
2	検査に伴う看護（心電図・負荷心電図・血行動態モニタリング）	演習
3	治療・処置を受ける患者の看護 薬物療法 心臓カテーテル治療 開心術	講義
4	循環器疾患をもつ患者の看護（血圧異常・ポンプ機能の低下・不整脈）	講義
5	循環器疾患をもつ患者の看護（弁膜症・先天性心疾患・動脈疾患・虚血性心疾患）	講義
6	呼吸器疾患患者の特徴と看護の役割	講義
7	呼吸器疾患患者のフィジカルアセスメント	演習
8	気管支喘息患者の看護 慢性閉塞性肺疾患患者の看護	講義
9	呼吸理学療法 体位ドレナージ 排痰方法 呼吸法の指導方法	演習
10	肺癌患者の看護 人工呼吸器を装着する患者の看護	講義
11	看護過程の展開 呼吸器・循環器疾患を併せ持つ患者の看護	演習
12		演習
13		演習
14		演習
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 70 点 配点（呼吸器 35 点 循環器 35 点）
 看護過程の成果物 30 点

テキスト 成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院）
 成人看護学 [3] 循環器（医学書院）

参考書 NEW 実践！ 看護診断を導く 情報収集・アセスメント第5版（学研）

成人看護学実習

実習目的

成人各期における健康問題を理解し、健康レベルに応じた個別的な看護を実践できる能力を習得する。

実習目標

- 1) 成人各期にある対象を、身体的、心理的、社会的側面から統合的にとらえることができる。
- 2) あらゆる健康レベルにある対象を理解し、個別性に応じて必要な看護が実践できる。
- 3) 保健医療福祉チームの一員として看護者の役割が理解できる。
- 4) 看護の実践を通して、人間・環境・健康に対する理解を深め、自己の看護観を養う。
- 5) 自己の課題を明確にし、常に追求する態度で学習に取り組むことができる。

健康レベルの考え方

	定 義	基本的な看護の取り組み
急性期	急激に発症し症状の激しい時期、また周手術期にあり、患者が医療従事者の意志を受け入れなければ健康レベルは向上しない。また、患者が自分におこっている事実を正しく認識し、判断することが出来ない時期	<ol style="list-style-type: none"> 1・強度の不安、病人役割への適応困難に対して、治療方針を理解し、受け入れられるような働きかけ。 2・生命の維持管理、救命、治療、検査時の援助 3・症状及び苦痛の緩和、不安の軽減、日常生活の援助など、安楽に向かった取り組み 4・家族への援助
回復期	機能障害のある患者が社会復帰するまでの準備期間で、もっぱら患者の意思によって健康レベルが向上する時期	<ol style="list-style-type: none"> 1・生活行動自立への援助、日常生活拡大への援助、社会生活適応への援助、患者への精神的支援を中心に訓練意欲と自立へ働きかける 2・廃用症候群、二次障害の予防、残存機能の活用 3・身体障害をもつ人が自分で障害と対決し受け止め、克服していけるよう適応に向かった働きかけ 4・家族への支援
慢性期	症状の変化が少なく生涯コントロールを必要とする時期で、患者の意思と医療従事者の意思との調節が可能。あるいは患者が自分におこっている事実になれ、ある程度判断できるようになった時期	<ol style="list-style-type: none"> 1・疾病の理解と受容 またセルフケア確立のために闘病意欲への働きかけ 2・治療（薬物・食事・運動療法）看護によって症状のコントロールをはかる 3・苦痛の緩和、日常生活の援助指導、家族への支援、社会生活適応への援助、継続看護 4・コミュニケーションなど人間関係援助技術を適応
終末期	近い将来に死を迎える時期。病気が現代医学では絶対に治癒しないと診断された時から死までの時期。その期間はおよそ3～6ヶ月の時期	<ol style="list-style-type: none"> 1・一度きりの人生を生きている一人の人間であり、個性をもった一個人であることを重視した、生への意欲を失わせない働きかけ 2・安らかな死が迎えられるよう支援 3・身体的・心理的・社会的苦痛への援助 4・家族の悲嘆への援助